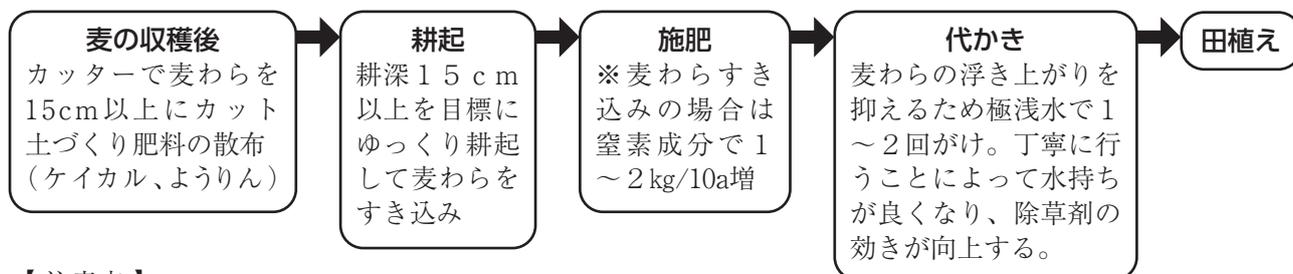


## <麦跡水稻の栽培ポイント>

### 1 田植えまでの作業ポイント



#### 【注意点】

- ・水持ち及び除草剤の効果向上のため、代かきはスピードを落とし丁寧にいきましょう
- ※麦わらすき込み開始後3年間は、わらの分解促進のため、基肥施肥量の窒素成分を増肥します。ただし、コシヒカリなどは倒伏の恐れがあるため増肥はしません。

#### ○品種別の基肥施肥量

品種名	肥料名(例)	基肥施用量 (kg/10a)	備考
あさひの夢	BBあさひの夢 専用222 (12-12-12)	50~60	追肥(穂肥)を省略でき、良食味生産に適します。
とちぎの星	BBとちぎの星 専用ひとふりくん (12-12-12)	30~40	追肥(穂肥)を省略でき、良食味生産に適します。とちぎの星の生育に合わせ、緩効性成分の溶出が早い肥料です。倒伏が見られる圃場では施肥量を減らしましょう。
コシヒカリ	ひとふりくん プレミア2号 (5-14-14)	60	基肥、穂肥に加え、土づくり肥料である苦土を3%、ケイ酸を10%含むので、省力的で良食味生産に適します。
	BB-F850 (基肥専用) (8-25-20)	20	窒素成分が抑えめで、りん酸、加里が多く良食味生産に適します。また、鉄分を含み土壌中の有害ガスから根を守ります。追肥はBBNK-202を10kg程度施用しましょう。
新規需要米 (飼料用米)	BBあさひの夢 専用222 (12-12-12)	50~60	追肥(穂肥)を省略できます。
	BB飼料米専用 211 (20-10-10)	30~35	追肥(穂肥)を省略できます。土壌診断に基づき、りん酸・加里が十分な圃場で使用して下さい。1袋15kgなので施用量に注意して下さい。

※圃場の地力によって基肥施肥量の増減をして下さい。  
※秋落ち田ではケイカル、ようりん等の土壌改良資材を施用しましょう。

(裏面あり)

## 2 箱施用剤を使用した効率的な防除

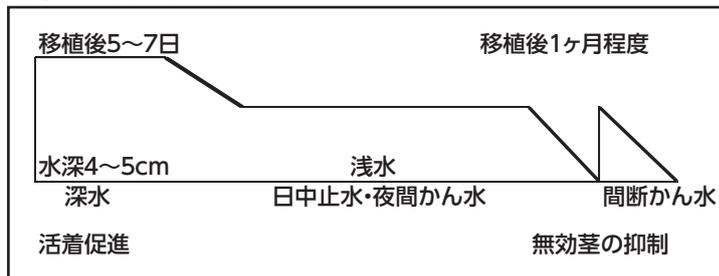
近年、コシヒカリなど耐病性が劣る品種ではイネ縞葉枯病（ゆうれい病）の発生が増加しています。本病を媒介するヒメトビウンカの防除には、フェルテラチェス箱粒剤・ルーチンアドスピノ箱粒剤等の薬剤を使用しましょう。（とちぎの星・あさひの夢・にじのきらめきは縞葉枯病抵抗性をもっています。）

また、いもち病の防除は、予防散布が基本であるため、ブーンパディート箱粒剤・ルーチンアドスピノ箱粒剤等の薬剤を使用しましょう。

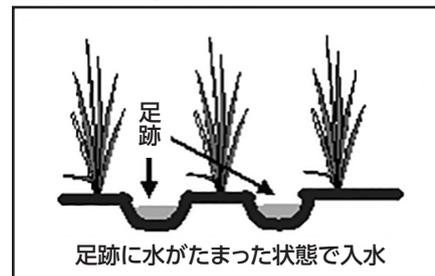
## 3 水管理のポイント

- (1)田植後5～7日までは、5cm程度の深水で活着を促進します。その後は浅水管理にします。
- (2)田植後1ヶ月程度で必要茎数（1株当たり20本程度）が確保できたら間断かん水または品種や生育量に応じた中干しを行いましょ。
- (3)麦わらをすき込んだ圃場は、麦わら分解時にガスが発生して水稻の初期生育に影響を与えることがあるため、早めに（田植後25日頃から）間断かん水に切り替えてガス抜きを行って下さい。

### ○水管理のイメージ



### ○間断かん水の方法



## 4 水田除草のポイント

- (1)除草剤の効果を安定させるため、散布後1週間は落水してはいけません。（止水管理）
- (2)多年生難防除雑草が増えた場合、発生期間が長いため、効果のある薬剤を選びましょう。
- (3)ノビエが残った時は、クリンチャー1キロ粒剤・クリンチャーEW、またはヒエクリーン豆つぶ250等の薬剤を散布します。
- (4)ノビエ、広葉雑草が残った時は、ハイカット1キロ粒剤（クログワイ・シズイ等）、ツイゲキ1キロ粒剤（ホタルイ・クログワイ・オモダカ等）、レプラス1キロ粒剤（クログワイ・ホタルイ・コナギ等）等の中期剤を使用します。またはアトトリ豆つぶ250（オモダカ・クログワイ等）も有効です。

※農薬はラベルの表示を確認して正しく使用してください。

※雑草の生育が進むと除草剤の効果が劣ります。発生初期に防除しましょう。